



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



サステナビリティレポート 2025

京都生活協同組合

発行

サステナビリティ推進部

〒601-8382 京都府京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

組織概要

創立：1964年11月27日

理事長：高倉 通孝

事業活動エリア：京都府全域

事業所：支部 10 / 店舗 18 / 葬祭事業 1 / 介護事業所 5

子会社・関連会社：5社

2024年度概況 (2025年3月20日)

組合員数：571,364人

事業高：842億2,770万円

出資金：188億4,322万円

職員数：1,417人 (7.5時間換算)

*アルバイト職員除く

本レポートでは、理念や2030年ビジョンに向かって取り組むことを、「私たちが実現したい姿」で示す4つの項目に沿い、事業と活動内容を報告します。



用紙：この製品は、適切に管理されたFSC®認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

印刷インキ：植物由来の資源を原料の一部に使用して製造したVOC含有率1%未満の地球環境に優しいインキを使用しています。

本冊子のご意見・感想をお寄せください



発行：2025年6月

INDEX

- 03 理事長メッセージ
- 04 理念／2030年ビジョン
- 05 ブランドロゴ
- 06 コープSDGs行動宣言
- 07 京都生協とSDGs

- 08 トピックス① | 60周年アニバーサリー
- 14 トピックス② | 地域とともに
- 18 トピックス③ | コープのエシカル

- 24 私たちが実現したい姿
 - ① 総合力で普段の暮らしへの役立ちを高める
- 26 ② 安心して暮らせる地域社会づくり
- 30 ③ 持続可能な世界の実現に向けて
- 34 ④ 多様性を認め合う活力ある組織を目指して

- 38 事業紹介

持続可能な 社会を目指して

京都生協は昨年、創立60周年を迎えることができました。これまで皆さまが紡いでくださった歩みのおかげであり、心より感謝申し上げます。この節目を新たな飛躍の力とし、明るい未来への道を歩み始めています。

近年、世界では気候変動による自然災害の頻発や長期化する紛争、さらには物価上昇が人々の生活に深刻な影響を与えています。その一方で、国連が2025年を「国際協同組合年」と定めたことは、協同組合が持続可能な社会に果たす重要な役割が再び注目されていることを示しており、テーマである「協同組合はより良い世界を築きます」は、私たち協同組合への期待と責任を明確に表しています。

国内では物価高騰が続き、農業や食を取り巻く問題も一層深刻化しています。生産者の高齢化や気候変動の影響に加え、昨年改正された「食料・農業・農村基本法」により、農業政策は新たな方向性へと進んでいます。こうした状況に対応すべく、京都生協は地産地消や産直の取り組みをさらに強化し、生産者との交流を深め、この流れに積極的に対応してまいります。安全で安心な食品の提供はもちろん、地域や環境に配慮した価値ある「エシカルな商品」の普及を通じて、家計を支える役割も果たしていきます。

また、少子高齢化と人口減少という社会課題に取り組むため、宅配事業や店舗事業、福祉事業を改革するとともに、デジタル技術の活用や食品ロス削減を通じて、SDGs達成に貢献してまいります。「頼もしい隣人たらん」の理念のもと、人々のつながりを尊重し、誰もが安心して暮らせる未来を創造する努力を続けます。

2025年という節目の年に向け、京都生協は組合員の皆さまや地域社会とともに進化を続けてまいります。今後も「京都生協があってよかった」と心から感じていただけるような事業と活動を目指し、誰もが笑顔で暮らせる持続可能な社会づくりに取り組んでまいります。



理事長 高倉 通孝

理念／2030年ビジョン

理念 頼もしき隣人たらん

私たちは、相手を気につけ、困っていることはともに考え行動し、暮らしに寄り添い、支え合っていく「頼もしき存在」であり続けます。

2030年ビジョン 京都生協は新たな希望をつくる

次の世代、そしてさらに次の世代へ「安全・安心」な地球環境を手渡していけるように、組合員や職員そして関係する全ての人々と力を合わせ、『新たな希望』をつくります。

私たちが実現したい姿

- (1) 京都生協の総合力で普通の暮らしへの役立ちを高めます。
- (2) 誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを進めます。
- (3) 持続可能な世界の実現に貢献します。
- (4) 多様性を認め合う活力ある組織を目指します。

理念・ビジョン全文



2025年は国際協同組合年(IYC2025)

国連は、持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、さまざまな分野で持続可能な開発目標（SDGs）に貢献している協同組合を評価し、その認知の向上と協同組合の振興のために、2025年を国際協同組合年（International Year of Cooperatives：IYC）に決めました。京都生協も全国の生協とともに価値発信に取り組みます。



ブランドロゴ



これまでの「安全・安心・信頼」といった基本的な提供価値を継承し、新たな姿勢表明として「KYOTO COOP」「地域」「地球」を表しました。私たちが暮らす町や、地域社会や地球（世界）が持続可能であるように、「安全・安心」により磨きをかけるとともに、多様な人々を認め合い、助け合う関係を紡ぐ希望ある社会を3つの輪にこめました。さまざまな色やパターンを用いて、KYOTO COOPが目指す「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。

サブグラフィックエレメント*

第1～7原則まである「協同組合原則」は、協同組合がその価値を実践に移すための指針です。世界中の協同組合の共通のルールとなっています。この原則をモチーフにしたデザインを配達トラックの架装などに用いて、「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。

*ブランドロゴを補完するグラフィック要素

<p>■第1原則 自発的で開かれた組合員制</p> <p>オープン モチーフ：開いているさま</p>	<p>■第2原則 組合員による民主的管理</p> <p>平等 モチーフ：均等に分けられたかたち</p>	<p>■第3原則 組合員の経済的参加</p> <p>参加 モチーフ：加わる・プラス</p>	<p>■第4原則 自治と自立</p> <p>自立 モチーフ：干渉し合わない自立する縦線</p>
<p>■第5原則 教育、訓練および広報</p> <p>学び モチーフ：向上心、矢印</p>	<p>■第6原則 協同組合間協同</p> <p>つながり モチーフ：接点、連なり</p>	<p>■第7原則 コミュニティへの関与</p> <p>かかわり モチーフ：重なり合う波紋</p>	<p>協同組合原則</p>

コープSDGs行動宣言

SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年9月に開催された国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。2030アジェンダは、2016年から2030年までの国際社会共通の目標を掲げています。この目標が、17分野の目標・169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」です。

日本生協連は、2018年6月15日に開催された、第68回日本生協連通常総会にて「コープSDGs行動宣言」を採択しました。「持続可能な開発目標 (SDGs)」について、生協もその一端を担うべく、7つの取り組みを通じてその実現に貢献することを約束します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



12 つくる責任 つかう責任
持続可能な生産と消費のために、商品と暮らしのあり方を見直していきます

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに **13 気候変動に具体的な対策を**
地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

1 貧困をなくそう
世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

16 平和と公正をすべての人に
核兵器廃絶と世界平和の実現を目指す活動を推進します

5 ジェンダー平等を實現しよう
ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

11 住み続けられるまちづくりを
誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

3 すべての人に健康と福祉を
健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

京都生協とSDGs



京都生協の事業や活動は、SDGsの取り組みと重なり合っています。



・ユニセフ支援活動
・フードドライブ



・WFP学校給食プログラム支援



・福祉事業
・介護食品の供給
・ピンクリボン運動支援



・食育
・消費者市民社会づくりの活動実施



・男女共同参画に向けた取り組み



・コアノンスマイル スクールプロジェクト



・再生可能エネルギーをつくり、使い、ひろげる取り組み



・健全な経営
・ワークライフバランスの強化



・自動発注
・セミセルフレジ



・ユニセフ支援活動
・フェアトレード



・地域見守り活動
・買い物困難者支援
・被災者支援活動



・産直
・エシカル消費推進
・プラスチック問題への対応



・事業での温室効果ガス排出削減
・家庭での削減啓発



・海洋環境配慮型製品の開発と普及 (MSCなど)



・森林環境配慮型製品の開発と普及 (FSC®など)



・ヒロシマ・ナガサキのピースアクション
・沖縄戦跡基地めぐり



・協同組合間協同
・地域団体、NPO、行政、自治体などとの連携

トピックス① | 60周年アニバーサリー

創立60周年を迎えて

京都生協は、高度経済成長による物価の高騰が暮らしを直撃し、不安が高まる時代であった1964年11月27日、「隣人に対する心持を薄れさせず、(中略)お互いに頼もしい隣人となりましょう」と消費者・組合員に呼びかけ、設立しました。

2024年、創立60周年を迎えました。1年間を通して、組合員、取引先、行政や諸団体、地域社会、役職員などが参加・参画しさまざまな取り組みを企画しました。理念「頼もしい隣人たらん」、2030年ビジョン「私たちは新たな希望をつくる」のもと、これからも多くのつながりを大切に、未来に向けて明るい希望を創造していきけるように事業や活動を行っていきます。

60周年ロゴ・公式ブランドムービーの制作



60th ANNIVERSARY

60周年ロゴの基本構成は、KYOTO COOPブランドロゴ+60周年記念を意味する「60th ANNIVERSARY」の文字列から成ります。記念年が目立ちやすいよう数字の部分に特徴を持たせています。

- ・KYOTO COOPブランドロゴの特徴である「3つの輪」の円形状を踏襲したユニークな60の字形です。
- ・もうひとつは、その0(ゼロ)に、協同組合ならではの意見を出し合う、声を反映していく組織であることを象徴的に表現した「吹き出し」の形状を有しています。



「Social Good Loop

～誠実さをベースに明るく楽しく、
つながりの輪が広がる～

京都生協がお届けしたい暮らしの価値をこのムービーで表現しました。

- ・おいしいを届ける、希望をつくる
- ・暮らしを豊かに、明るく楽しく開かれた自由な場
- ・グローバルな視点で暮らしを支え、持続可能な世界の実現に貢献

動画はこちら



京都生協のあゆみ

- 1964 「京都洛北生活協同組合」誕生
- 1968 生協の店1号店(現コープ下鴨)が開店
- 1972 「洛南生活協同組合」誕生
- 1974 「洛北生協」から名称変更、「京都生活協同組合」誕生
- 1978 「洛南生協」と組織合同を実施
- 1981 共同購入に「OCR注文書」を導入
- 1985 新しいシンボルマークを作成 
- 1986 「左京くらしの助け合いの会」結成
- 1999 個人宅配がスタート
- 2000 「あみの生協」と組織合同を実施
- 2003 「コープきんき事業連合」設立
- 2012 夕食サポート事業を開始
- 2021 ブランドロゴをリニューアル

商品のあゆみ

- 1968 「生協しょう油」開発  京都生協開発第1号商品は、実はしょうゆでした!
- 1970 「CO・OP牛乳」開発  開発当時は三角形のバックでした。班単位で配達を受け、まとめて代金を払う「共同購入班」がスタート
- 1982～ 「京都生協コープ商品」開発ラッシュ  1988年ごろまでにたくさんの京都生協コープ商品が開発されました。現在まで長く愛される商品も数多く誕生!
- 2009 「産直商品」の基準制定
- 2021 京都生協コープ商品パッケージをリニューアル 



組合員・職員とともに

組合員・職員・取引先とともに

水辺のキレイプロジェクト

@神崎海岸

2024年9月に爽やかな秋晴れのもと、組合員と職員約70人が参加し、舞鶴市にある神崎海岸のクリーンアップを行いました。海沿いの松林に落ちている大量の松葉をかき出す作業に汗を流しました。ごみ袋83袋分の松葉をかき出し、神崎海岸の美化に協力しました。



@鴨川

2024年10月には、京都市内を流れる鴨川のクリーンアップに組合員と職員93人が参加し、川沿いを歩く地元の方々にもねぎらいの言葉をいただきながら、ごみを拾いました。



「水辺のキレイプロジェクト」は、街から海へ流れ着くごみの削減を目的としています。海洋ごみの大半は街から発生しており、その問題を根本的に解決するためには、日常生活からごみを出さない意識が重要です。清掃活動を日常に定着させ、海や河川的环境保護に取り組みました。

参加した組合員・職員の声

- ・ 宅配や店舗だけでなく、幅広い取り組みをやっているのが良いなと思い参加した。
- ・ 久々に同期に会えて嬉しかった。

料理研究家 大原千鶴さん講演会

2024年11月に京都リサーチパークで、料理研究家 大原千鶴さんによる講演会「京都の暮らしとシンプルごはん〜パパッと作ってきちんと食べる〜」を開催し、のべ366人が参加しました。講演では、京都の和食文化を通して、食材をムダなくおいしく使い切る料理のコツや、「食育」「地産地消」「食品ロス」など、食に関連するテーマや問題、食卓からできる社会貢献などについて、幅広く語っていただきました。手順をシンプルにして料理を楽しむコツや、料理を楽しむ下準備のヒントなどの話の中で、聴講者は聞き入る場面があったり笑いに包まれる場面があったりと、あっという間の2時間でした。



参加した組合員の声

- ・ 料理や丁寧な暮らしを楽しもうという気持ちで満たされました。
- ・ 日々の食卓から地球環境のことまでとても素敵なお話でした。
- ・ 子どもたちも巣立ち、夫婦だけになってからは料理も少しおっくうになっていましたが、「料理って楽しい！」と再認識しました。



Coop Fan Meeting

@福知山

2024年10月に福知山市三段池公園で「第25回 Coop Fan Meeting in 福知山」を開催し、223人の組合員が参加しました。テーマは「きて！みて！まるごと体感!!60年の感謝を込めて」、京都府北部地域での初めての開催です。商品のづくり手であるメーカー・生産者の方たちと組合員が商品を通じて触れ合える交流会がCoop Fan Meetingです。商品開発ストーリーや商品に込められた想い、美味しい食べ方やご家庭でのエピソードなど楽しく交流しました。



参加した組合員の声

- ・ 普段のカatalogだけでは分からない商品の味や魅力を知る良い機会になりました。気に入った商品を注文してみようと思います。



AQUARIUM NIGHT

@京都水族館

2025年3月に京都市下京区にある京都水族館で、京都生協グループの職員とその家族を招待したイベントを開催しました。美しい水中の世界を楽しみながら、イルカショーの観覧や職員によるパフォーマンスが披露されるなど、仲間や家族と思い思いの時間を過ごしました。



参加した職員の声

- ・ 初めて京都水族館に来ました。これからも組合員のための暮らしに役立つ店づくりができるように頑張ります。
- ・ 家族で参加できて思い出に残るイベントでした。子どもが喜ぶ顔をたくさん見られて働いていて良かったなと思いました。

取引先とともに

60周年記念商品を開発

京都生協では、60周年記念商品の開発にあたり次の3つを大切にしました。1つ目は、組合員に長らく愛されてきた商品を使うこと、2つ目は京都の地元企業と協同すること、3つ目は新たなチャレンジとして「フードロスの貢献」に取り組むこと。60年間の感謝、そしてこれからの京都生協の想いを伝えるため、試行錯誤を繰り返しながら開発しました。

開発商品数 **32**点



●想い・想いのロールケーキ



●せいきょう牛乳せんべい
ほんのりごま風味



●さくらカステラ ごま風味



●京都産たまねぎを使った
ウスターソース



●抹茶香る生八ッ橋
京都生協抹茶使用



●しもつコープファーム
みかんジュース

組合員学習

コープ商品の誕生秘話を知ったうえで購入したい、との思いから「パイヤーから聞く京都生協60周年記念開発商品」をテーマに、商品パイヤーを講師に迎えて商品学習会を開催しました。各商品の開発時における苦労話、商品にかける想いを知る機会になりました。

参加した組合員の声

・コープ下鴨がそんなに歴史が長い店舗だということにびっくりしました。お話を聞いて、コープ商品が一層好きになりました。



平和を考える

「おかあさんの被爆ピアノ」上映会

2024年9月にウイングス京都で「おかあさんの被爆ピアノ」上映会を開催し、210人が参加しました。映画「おかあさんの被爆ピアノ」は、原爆を投下された広島で奇跡的に焼け残った「被爆ピアノ」の音色を全国に届けている実在の調律師 矢川光則さんをモデルに、佐野史郎さんと元AKB48の武藤十夢さんのダブル主演で描いたヒューマンドラマです。

上映前に、京都生協の平和の取り組みのひとつである「ピースアクションinヒロシマ」の参加者から会場の皆さまへ活動の報告を行いました。

参加した組合員の声

・戦争によるどんなにつらい体験でも、伝承していくことで人の気持ちや平和の大切さが理解できるし、物のありがたみ、家族がいるありがたさ、人の思いの温もり、話し合える環境が救いになる、などたくさん考えさせてくれる映画でした。



ピアノコンサート

@京都テルサ @舞鶴赤れんがパーク

2024年12月に京都テルサと舞鶴赤れんがパークで、80年前に広島で原爆の被害を受けた「被爆ピアノ」による60th ANNIVERSARY ピアノコンサートを開催し、京都会場では530人、舞鶴会場では154人の組合員が参加しました。いずれの会場も、2023年度社会貢献活動助成金助成団体の一つである「NPO法人 京田辺音楽家協会」理事長の竿下和美さんの演奏のもと、ピアノの音色とともに地元の学生さんによる合唱のハーモニーで平和に思いを馳せる時間となりました。会場に運ばれた「被爆ピアノ」は広島に原爆を投下されたとき、爆心地から約3kmの民家で被爆しました。その後、被爆者団体から広島の調律師 矢川光則さんに託され、修復後は矢川さんとともに国内外の演奏会でその音色を各地に届けています。2017年「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」のノーベル平和賞受賞時にもノルウェーオスロの記念コンサートで使用されました。

参加した組合員の声

・ピアノ演奏、合唱、どれも心に響き、涙がでました。月日が流れて被爆ピアノと同じ空間にいたことが不思議な感じで感慨深かったです。生協さん、本当に心温まる良い演奏会の開催をありがとうございました。



KYOTO Co-Lab

京都生協では、コープ二条駅2階に設けたフリースペースで、さまざまなイベントを行っています。SDGsに関連するイベントも多数開催し、人々が安心して暮らし続けられる地域づくりに取り組んでいます。

KYOTO Co-Lab (きょうとこらぼ)

さまざまな人とつながり、コラボレーションが盛んになるようにとの願いが込められています。



地域との連携 / 組合員活動

パネル展 京都市中京区「通りの今昔物語」

2025年1月に中京区役所を通じて「通りの今昔物語」を企画しました。この企画では、昔の通りの写真と同じ場所から撮影した現在の写真を並べて展示することで、通りや街並みの移り変わりに関心を持っていただくきっかけとなりました。地元新聞にも掲載され、多くの方々が懐かしい写真や昔の街並みに興味深く見入っておられました。また、2025年2月には第2弾として「通り」にまつわる思い出の写真とエピソードも展示しました。



子ども服の交換会

北ブロックのコープの子育てひろばでは「子ども服ゆすりあい交換会」を開催しており、サイズアウトして着られなくなった乳幼児服の交換会として毎回人気企画となっています。



学習会「頑張る私を甘やかすショコラを教えて～2025年バレンタイン事情～」

2025年1月にコープきんき事業連合の商品バイヤーを講師に迎え、宅配のバレンタインチョコ商品の学習会を開催。25人の組合員が参加しました。



取引先との連携

大山乳業「カウイーがやってくる!産直せいきょう牛乳イベント」

2024年5月にせいきょう牛乳でおなじみの大山乳業農業協同組合と一緒に「カウイーがやってくる!産直せいきょう牛乳イベント」を開催しました。牛乳飲み比べコーナーでは、「せいきょう牛乳」「低脂肪乳」「鳥取大山おいしい牛乳」の飲み比べをしたり、大山乳業マスコットキャラクター「カウイー」のぬり絵で遊んでもらったり、イベントを通してせいきょう牛乳を楽しく学んでいただく機会になりました。



さとの雪食品「親子で手づくり豆腐体験会」

2024年8月に、にがり充てん豆腐でおなじみのさとの雪食品株式会社と一緒に「親子で手づくり豆腐体験会」を開催し、41人が参加しました。さとの雪食品の社員の方から「お豆腐がどのように作られているのか」など楽しい学習会形式で教えていただき、その後は参加者が豆乳からお豆腐を手づくりしました。お豆腐づくりは大成功!作りたてのほんのり甘く、味の濃いお豆腐をその場でいただきました。



無印良品「夏祭り」

2024年8月に無印良品との共催で「夏祭り」を開催しました。コープ二条駅、無印良品の両方のレシートを提示すると、射的、ストラックアウト、輪投げ、スマートボールに参加することができ、ゲームすべてをクリアすると、ガチャガチャでお菓子がもらえるという企画を実施しました。夏祭り当日は、楽しみにしていた子どもたちでにぎわいました。



地域

誰もが安心して暮らせる地域社会づくりのために、そして地域に京都生協があって良かったと実感していただけるように、地域と連携して課題解決に取り組みました。

新一年生を応援 ランドセルカバーの寄贈

共済事業では、毎年京都府内の自治体と連携して、希望する小学校の新一年生にランドセルカバーを寄贈しています。CO・OP共済キャラクター“コーすけ”のイラストが描かれた黄色地のランドセルカバーは、周囲の目を引き、遠くからでも目立つデザインです。今後も、ランドセルカバー寄贈の取り組みを通して全国の小学生を見守り、交通安全に寄与していきたいと考えています。



2024年度提供数 **62**校 寄贈枚数 **3,319**枚

伝統を応援 祇園祭うちわ

祇園囃子とともに、7月の京都は祇園祭一色。祇園祭は千年以上の歴史を持ち、7月1日（吉符入）から31日（疫神社夏越祭）まで、1カ月にわたって多彩な祭事が行われる八坂神社の祭礼です。祇園祭の伝統を未来へ継承していくために、うちわを作成し応援しています。うちわ骨に京都府産の廃棄米を使用したバイオマスプラスチックを、紙は宇治川の葦を使った葦紙を使用し、環境に配慮したうちわになっています。



伝統を継承 コープ祝園駅に本場の阿波踊り

2024年7月にコープ祝園駅では「さとの雪フェア」として徳島県より鳴潮連（めいちょうれん）をお招きし、阿波踊りイベントを開催しました。阿波踊りは、徳島県を代表する伝統的な祭りで、その起源は400年以上前にさかのぼります。「にがり充てん豆腐」を製造している徳島県のさとの雪食品株式会社の協力で実現しました。



コープにしがも出張授業

2024年8月に京都市立待鳳小学校へ小学校にほど近いコープにしがもの店長と環境担当職員が総合的な学習のゲストティーチャーとして授業に参加しました。昨年小学5年生の時に「食品ロス削減」の取り組みを紹介した児童たちに、小学6年生となった今年は「プラスチック削減」をテーマに説明しました。この授業での学びを児童がチラシなどにまとめ、10月にコープにしがもの店頭で来店された組合員に児童自らが配布し、そして11月にもフェアトレード商品や平飼いたまごなどのエシカル消費についてをお知らせしました。



みんなのよみきかせ絵本大賞

京都生協は、日本生活協同組合連合会、生活協同組合コープさっぽろ、日本コープ共済生活協同組合連合会、日本出版販売株式会社、株式会社絵本ナビが共同で取り組む、「みんなのよみきかせ絵本大賞*」の趣旨に賛同し、応募のあった京都府内の3つの保育施設への絵本贈呈式を実施しました。

*「みんなのよみきかせ絵本大賞」は「絵本のよみきかせが好きな人が、今一番よみきかせたい絵本を選ぶ」をコンセプトに、これからの未来を担う子どもたちのために絵本を選出、表彰するというものです。よみきかせに最適な絵本を、みんなで選ぶことで「絵本のよみきかせ」のすばらしさを伝える機会にしたいと考えています。



さとのやま保育園



かわしま保育室たんぼぼ



木津川市立いづみこども園

京都橘大学クロスオーバー型課題解決プロジェクト参加

京都橘大学の産学公連携科目「クロスオーバー型課題解決プロジェクト」に参加しました。この授業は、企業や自治体等と連携して実施し、連携先から提示された課題に対して、学部・学科を超えた学生が専門性を共有しながら課題提案を行うというものです。京都生協は、「10年後の自分の暮らし、その買い物や購買行動」をテーマに課題提案を受けました。



SR・環境

自然と社会のしくみを相互の関連の中で総合的にとらえ、「生産・流通・消費・廃棄の連鎖」をトータルに視野に入れた科学的な活動を展開するために「SR・環境方針」を掲げています。

SR(社会的責任)・環境方針

京都生協は、「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」することが最重要課題のひとつであることを認識し、全組織をあげて環境負荷の低減をはじめとするSR（社会的責任）活動の向上に努力し、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に貢献することを方針に掲げています。また、2014年よりKES・環境マネジメントシステムのステップ2SRに登録維持をしており、毎年、SR・環境目標を計画してSR・環境マネジメント活動の継続的改善を図っています。

京都生協
SR（社会的責任）
・環境方針



- 1.当生協の事業活動、商品及びサービスに係る「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」することを常に意識し、SR活動の向上並びに環境汚染の予防及び環境保護を推進するとともに、改善活動の幅を7つの中核主題に広げ、SR・環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。なお、環境保護には、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護などを含みます。
- 2.当生協の事業活動、商品及びサービスに係るSR・環境マネジメント活動に関して適用される法的及びその他受け入れを決めた要求事項を順守します。
- 3.当生協の事業活動、商品及びサービスに係るSR・環境影響のうち、7つの中核主題として「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」の項目をSR・環境管理重要テーマとして取り組みます。
- 4.一人ひとりがSR活動の向上、及び環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、このSR・環境方針を全役職員に周知するとともに、一般の人々が入手できるようにします。
- 5.組合員によるSR・環境改善活動に積極的に取り組み、日々の消費のあり方が持続可能な社会の実現に多大な影響を及ぼすことへの自覚を広げます。あわせて、地域のSR・環境改善活動にも積極的に参画します。

SR・環境目標と評価

A良好(100%以上達成)、Bやや不足(90%以上達成)、C不適合(90%未満)

中核主題	2024年度の目標	2024年度の取り組み	評価
1 組織統治	コンプライアンスの周知徹底を行います。	職員へのCSR教育とアンケート、取引先へのアンケートにより、コンプライアンスの周知徹底を行いました。	A
2 人権	障害者雇用率3.4%を目指します。	障害者雇用率は3.54%でした。	A
3 労働慣行	階層を問わない職員教育(コンプライアンス、ハラスメント他)を実施します。	eラーニングで全職員向けのハラスメント学習を実施しました。	A
4 環境	CO ₂ 排出総量の削減を、2023年度比120%とします。	CO ₂ 排出量は、8,212tで前年比107.2%となり、目標比111.8%となりました。コープ二条駅のリニューアルオープン後の一年であり、CO ₂ 排出係数の変更もあって増加しました。再生可能エネルギー由来のCO ₂ フリー電気の転換により1月以降は減少しています。	A
	冷凍機更新を伴う全面改装店舗数の50%以上に自然冷媒機器を導入します。	コープ醍醐石田の改装工事において、自然冷媒機器を一部導入しました。	A
	使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量を2023年度比1%に削減します。 *リサイクル回収総量2023年度比102%とします。 *カタログは2023年度から除く	使用量は414,621kgとなり、前年度比99.2%と削減は進みましたが、目標には及びませんでした。 リサイクル回収総量は、307,385kgで、前年比98.4%となりました。ペットボトル、内袋で回収量が増加しました。透明容器・透明ふたのリサイクル回収を開始しました。	B B
5 公正な事業慣行	エシカル消費対応商品の供給数量を2023年度比102%として、普及を図ります。	エシカル消費対応商品の総利用点数は、約2557万点、前年比93.5%となりました。宅配の企画回が1週少なく、総供給点数も減少していることが影響しています。	B
6 消費者課題	店舗のフードドライブ実施店舗数を1店舗増やします。	コープ御所南でも開始し、全店でフードドライブの実施となりました。	A
	食品リサイクル率の向上に向けた施策を実施します。	二条駅の消滅型生ごみ処理機の運用に加えて、コープ宇治神明・城陽・男山・京田辺で食品リサイクル回収を開始し、堆肥化しています。	A
7 コミュニティへの参画・コミュニティの発展	研修受け入れ・学習会の開催150回を目指します。	学習会、事業所見学などの年間活動総数は235回となりました。	A

コミュニティへの参画・発展

京都生協では、商品やサービスの利用だけでなく、より良い暮らしにしていけるためのさまざまな活動に参加することができます。また、組合員の「もっと知りたい」「やってみたい」ことへの参加や活動をエリア会やコープクラブ、サークル活動などを通して応援しています。

エシカルなお買い物応援イベント

京都市との「エシカル消費普及促進に係る連携協定」に基づいた取り組みとして、2024年5月に「アースデイ@コープ二条駅」を京都市、無印良品と共催し、店内で「エシカル消費推進イベント『エシカルな商品を探せ!』」「オリジナルマイバッグづくり」などを実施し、のべ288人が参加しました。2024年7月にはコープ祝園駅、2025年2月にはコープ醍醐石田で「エシカル消費推進イベント」を開催し、2店舗合計で254人が参加しました。



いきもの学校

生物多様性の大切さや自然環境が地球温暖化防止に役立っていることなどを学ぶ企画として、毎年「いきもの学校」を開催しています。2024年度は「植物園編」「動物園編」「京北編」「たねダンゴ編」のテーマで取り組みました。親子連れなど、のべ145人が参加し、生物多様性の保全について楽しみながら学ぶ機会になりました。



参加した組合員の声

- ・子どもが、周りの上級生を見習って副園長先生の話をもとにメモをとって、課外学習の仕方まで学べた感じが良かったです。楽しく学べました!
- ・子どもが川へ生き物探しに行くのに夢中で、他の川にも行ってみたいと言っていた所でした。初めての用水路での網のガサガサや顕微鏡での観察、本当に楽しそうでした。



エリア会での学習会

地産地消生産者との交流

左京Aエリア会では、京都市左京区上高野にある西野農園を見学し、収穫体験をしました。生産者である西野さんのお話から野菜づくりへの熱意とプライドを感じ、大根も白菜も想像以上にずっしりと重くてきれいで、一つ一つ大事に育てられていることを実感しました。



海洋プラスチックごみの学習

京丹後Aエリア会では、海洋ごみについて地域おこし協力隊の方からお話を聞きました。海洋ごみは塩分が付いているので焼却炉で燃やすことが出来ず埋め立てごみになっているそうです。自分たちのこれからや未来の子どもたちのためにも出来る限りのごみの分別や、なるべくごみを出さないようにする大切さに気づきました。



エシカル消費の推進

地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」、そしてそれは「誰かの笑顔につながるお買い物」であると考え、エシカル消費の啓発に積極的に取り組んでいます。

コープのエシカル
公式サイト



エシカル消費対応商品の普及

コープが取り組むエシカル消費

①海のエシカル (例)



ふっくらしらす干し
マリン・エコーラベル・ジャパン(MEL)は、水産資源の持続性と環境に配慮している、日本の漁業や養殖業を認証しています。この商品の利用が、資源や環境の保全に取り組む生産者を支えることにつながります。

②森のエシカル (例)



ミックスキャロット
FSC®認証は、適切に管理された木材と責任ある原料調達された製品を確実に消費者に届けることで、森林資源の保全を消費者が支えるしくみをつくっています。

③プラスチック問題のエシカル (例)



ビーフカレー
生協で回収したPETボトルを、この袋の再生プラスチックの一部に使用しています。

④産地と生産者を応援するエシカル (例)



ひじきドライパック(パウチ)
主要な原材料に国産素材を使用している商品にマークを表示。国産原料を求める組合員の利用が広がり、日本の農畜水産業を応援することを目的としています。

その他にも、右記のピンクリボン運動として、コープ化粧品の利用1品につき1円が、乳がんに対する啓発と患者や家族の支援に役立てられています。

エシカル消費対応商品 取り扱い点数

2,557 万点
(前年比93.5%)

ピンクリボン運動～乳がんで悲しむ人をなくしたい～

日本生協連は、認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)の「ピンクリボン運動」に賛同し、2017年10月よりサポーターとなりました。キャンペーンを通して、乳がんの早期発見、定期的な検診受診を啓発・推進する取り組みを応援していきます。

ピンクリボン月間に合わせ、コープ化粧品で寄付を行いました。

キャンペーン期間:
2024年9月1日～
2024年10月20日
(期間限定)

2023年度
全国の生協での寄付金総額
コープ化粧品 109万1,679円



エシカル消費に対応したコープ商品を見つけやすいように、店舗やカタログで目印をつけています。

●カタログ

「エシカル」
マークを
チェック



●お店

プライスカードやパネルをチェック



寄付金付き商品

京都生協では、コープ商品以外に「サンゴ再生もずく基金」や「産直さくらこめたまご応援金」として、生産者や生産地を応援する活動をしています。

もずくでサンゴを救う 「サンゴ再生もずく基金」

もずくの生産と消費を通じて「里海づくり」を推進するために、2012年12月に「恩納村コープサンゴの森連絡会」が結成され、2013年から京都生協でも「サンゴ再生もずく基金」に取り組んでいます。いま沖縄の海では、地球温暖化やオニヒトデの大発生などにより、サンゴが白化して死滅する現象が起きている。死滅したサンゴに代わり、新しいサンゴの苗を植え付けてサンゴ礁の海を育む活動として、基金対象商品の「もずく」を購入することで1品あたり1円がサンゴ再生事業を支援するための基金になっています。



飼料米と生産者を応援 「産直さくらこめたまご応援金」

産直さくらこめたまごは、京都市産の国産鶏「さくら」が、京都府産の飼料米を食べて、京都で産んだ「京都のたまご」です。農業・農村の再生、食糧自給率の向上、地産地消の取り組みとして2009年にスタートしました。鶏の餌を、外国から輸入されるトウモロコシではなく少しでも国産のお米に切り替えようと、京都府内の休耕田で生産した飼料米を京都府内の養鶏場で鶏に給餌し、産んだ卵を京都生協の組合員が利用する地産地消の取り組みです。さくらこめたまごを1個利用すると、1円が生産者に寄付される応援金になっています。



応援金

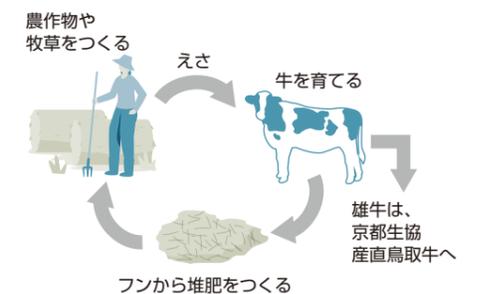
355,052 円

応援金

3,562,174 円

循環型酪農 産直せいきょう牛乳

せいきょう牛乳は鳥取にある大山乳業で製造されており、「生みの親」である乳牛は、鳥取県の大山山麓をはじめ自然豊かな牧場で、のびのびと健康的に育てられ、全国でもトップレベルの乳質を生み出しています。牛の健康には良質の牧草は欠かせません。牧草は酪農家自らが土を耕し育て、牛の堆肥など有機肥料を活用する循環型酪農にも取り組んでいます。大山乳業の酪農指導部では、獣医を含む専門の職員が「土・草・牛づくり」を基本に生産指導し、飼料の安全性はもちろんのこと、牛の健康管理から搾乳衛生まで、酪農家をサポートする体制を整えています。質の良い牛乳を未来につないでいけるよう、SDGsの視点で生乳づくりに取り組んでいます。



トピックス③ | コープのエシカル

プラスチック削減

プラスチックは安全かつ衛生的で、コストが安価で加工しやすい特徴から日常生活にあふれていますが、「その後」が大きな課題になっており、地球温暖化や資源の枯渇、海洋プラスチック問題の原因にもつながっています。京都生協では持続可能な地球環境のため、プラスチック削減の目標を定め取り組んでいます。

プラスチック削減目標

- ・使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量を2030年までに2018年度比で25%削減します。
- ・2025年にレジ袋の有料配布を取りやめます。
- ・2030年までに宅配内袋・注文書セット袋のリサイクル回収率40%を達成します。

商品パッケージの減量や素材変更

京都生協コープ商品の製造メーカーの協力のもと、「味付寿司あげ」は、外袋が現行の2.8gから2.265gと薄くなり、年間53kgのプラスチック使用量の削減見込みです。2025年度は「産直たまご」のパッケージを減量します。また、店舗の水産や総菜部門では、リサイクルで回収したPET再生素材を使ったCO₂削減に効果のあるエコトレに切り替え、より環境に配慮した素材を選択していきます。



お買い物袋持参運動からその先へ レジ袋の有料配布の取りやめ

レジ袋削減の取り組みとして「お買い物袋持参運動」を1983年にコープ下鴨でスタートし、1996年には全店でレジ袋の有料化を展開しました。このたび、新しい取り組みとして、2025年レジ袋の有料配布の取りやめに向け、4店舗で2024年10月からレジ袋の取り扱いを終了しました。4店舗でのお買い物袋持参率は、2025年3月累計で4.7%の向上となり、この結果を受け、2025年4月より全店でのレジ袋の取り扱いを終了しました。

お買い物袋持参率 **93%**
レジ袋削減枚数 **1,235** 万枚



リサイクル回収

宅配や店舗で使用した容器や包材、カタログなどを回収し、再生品の原材料とするリサイクル活動を行っています。2024年度は新たに透明容器のリサイクル回収を2店舗で開始しました。

リサイクル実績

回収品目	宅配		宅配・店舗		店舗		
	内袋・注文書セット袋	カタログ類	紙パック	卵パック	トレイ	透明トレイ	ペットボトル
用途	プラスチック製品の原料	新聞用紙、印刷用紙	トイレロール、ティッシュペーパーなど	卵パックの原料	トレイ	透明容器(エコトレイ)	透明容器、コープ商品のパッケージ
回収量(t)	39.6	3,854.5	113.3	39.3	18.4	0.8	95.9
回収率(%)	23.2	72.6	47.0	62.9	56.9	-	189.3*
CO ₂ 削減量(t-CO ₂)	-	-	101.3	145.5	90.9	-	311.8

※京都生協での供給量以上の量を回収しています。
※ペットボトルキャップ 回収量 561万個

リサイクルループの実現 ペットボトルがパッケージに

日本生活協同組合連合会では、生協で回収したペットボトルをコープ商品のパッケージの原料の一部として再生利用する取り組みを行っており、京都生協でもリサイクル回収したペットボトルを提供しています。この取り組みを通して、「**CO-OP** ふくら卵のオムライス」や「**CO-OP** ビーフカレー」などの商品パッケージに再生素材が使われており、順次拡大していきます。



ハートコープきょうとの雇用

ハートコープきょうとは、「障害者雇用促進法」に基づき設立された、京都生活協同組合100%出資の特例子会社です。京都生協のパートナー企業として、リサイクル事業などを通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護など、社会への貢献に取り組んでいます。リサイクル事業では、回収された宅配のカタログや内袋、たまごパックを分別・減容・梱包して資源化しています。



総合力で普段の暮らしへの役立ちを高める

京都生協が追い求めてきた食や暮らしの安全・安心は、今日の社会のスタンダードとなりました。持続可能な社会がさらに求められる今、食や暮らしだけでなく人への優しさや寄り添う心、人とのつながり、そして地球に対する「安全・安心」がこれからのスタンダードになると確信しています。

※総合力とは、組合員・取引先・職員がシームレスな連携を行うことで、組合員の利便性向上を目指すこと

子育てサポート

子育てひろば

子育て応援のひとつとして、親子がほっと集える場「子育てひろば」を開催しています。この子育てひろばは、組合員だけでなく地域のどなたでも参加することができ、絵本の読み聞かせやお歌、手遊びをはじめ、季節にあわせた楽しいイベントを行っています。子育てを通じて社会とつながりたい、この地域で子どもと一緒に暮らし続けたいという思いのもと、参加者同士の交流が育まれています。



はじまるばこ 5万人の赤ちゃんに

2016年から、京都府にお住まいの1歳未満の赤ちゃんがおられるご家庭に、育児をサポートする食品や日用品を詰め合わせた「はじまるばこ」をプレゼントする取り組みを行っています。2024年10月にはお渡し累計5万人を超えました。



—— 5万人目にお届けした方の声 ——

・友達から「はじまるばこ」を教わってもらっていて、インスタグラムで「はじまるばこ」のお知らせを見て申込みました。すでに宅配を利用しているのですが、もうすぐ離乳食もはじまるので使ってみたいです。

地域の見守り

各自治体と「配送時における高齢者等見守り活動」協定を締結しています。宅配事業や夕食サポート事業では、毎週同じ曜日の同じ時間に、同じ担当者が商品をお届けしていることから、地域をよく知り、組合員や高齢者と直接お会いする機会が多いという特徴を生かし、各自治体と連携を取りながら見守り活動を行っています。配達時に異変を察知した場合、連携している各市町村の担当窓口や地域包括センターなどに連絡しています。

見守り協定数 **23** 自治体 2024年度見守り通報件数 **73** 件

総合力

共済事業 新社会人向けのお金の話などの学習会

京滋奈エリアの大学生協と協力し、計265人の新社会人になる学生に向けて学習会を開催しました。給与明細の見方や資産運用、奨学金の返済、クレジットカードの使い方など、実生活に役立つ内容を学びました。



葬祭事業 遺言学習会

2024年6月と10月の2回、京都司法書士会所属の司法書士を講師に招き、「相続・遺言学習会」を開催しました。計4会場で33組38人が参加しました。



福祉事業 介護相談会

「介護を受けるにはどうしたらよいか」など、介護に直面したときの分からないことや困りごとを気軽に相談してもらえるように介護相談会を実施しています。2024年度は店頭やイベント会場など4会場で開催しました。



商品点検・検査の実施

商品を安心してご利用いただくため、品質保証部が定期的に点検・検査を実施し、商品の確かさ・安全性・品質を科学的に検証しています。

産地・取引先での点検の様子を公開中



検査名	内容	数
微生物検査	微生物による食中毒のリスクが高い食品を中心に国の基準よりも厳しい生協の独自基準に基づき検査を実施します	2,454検体
理化学検査	残留農薬や放射性物質(セシウム)などの検査を行います	193検体
産地点検	産直商品の産地を訪問し、農畜産物の栽培、飼育方法などを確認します	59カ所
工場等の点検	京都生協コープ商品の製造工場をはじめ、取引先や店舗を訪問して衛生的な環境のもとで商品が製造されていることなどを確認します	75カ所

安心して暮らせる 地域社会づくり

お買い物サポート

買い物送迎サービス おかいものサポートカー

「おかいものサポートカー」は、毎週決まった曜日・時間にご自宅の近くから店舗まで無料で送迎をしています。交通が不便でお買い物に行きにくい、高齢者など店舗まで足を運ぶことが難しいなどの組合員のお買い物をサポートし、2024年度の運行は2店舗増えました。

—— 利用者の声 ——

- ・いつも同じ仲間と一緒になので、行き帰りの会話が楽しいです。

運行店舗数

12 店舗

登録者数

1,192 人



移動店舗おかいもの便

軽車両に必要な日用品や食料品を積み込み、店舗が少ない地域を中心に「移動店舗おかいもの便」を運行しています。このサービスは、店舗に足を運ぶことが難しい高齢者やお買い物が困難な地域にお住まいの組合員に喜ばれており、自治体や社会福祉協議会、福祉施設などと連携して停留所の拡大を進めています。2024年7月には、閉店した食料品店がある商店街からの依頼を社会福祉協議会から受け、停留所を設置しました。

—— 利用者の声 ——

- ・買い物するだけでなく、顔なじみの方との交流の場になっています。

週あたりの利用人数

830 人

停留所数

101 カ所



夕食サポート

その日の朝に調理したお弁当を担当スタッフが毎日お届けする夕食サポートは、2024年11月から京都府福知山地域に配達エリアを拡大しました。栄養バランスを考え、旬の野菜や魚を使い、毎日の「夕ごはん」が楽しくなる、献立メニューをお弁当でお届けしています。また、お弁当と一緒に注文できるサイドメニューが新登場し、食パンやバナナ、たまご、ヨーグルトなどもご利用いただけるようになりました。

—— 利用者の声 ——

- ・離れて暮らす母に、毎週食パンを買って届けていたので、お弁当と一緒に届けていただけるのはとても助かります。
- ・お弁当以外にも毎日定期的に食料品が届くので、買い物に行く回数が減り助かっています。



京都生協が提供するサービスは「食」を中心としたものにとどまらず、組合員、地域や行政などと連携しながら暮らしを支えています。時代とともに変化し続ける地域の暮らし、その中で誰も取り残すことなく住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会づくりに取り組んでいます。

もったいないからありがとうへ

フードドライブ全店で

フードドライブとは、ご家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、フードバンクを通じて、まとめて地域の福祉団体や施設などに寄付する取り組みです。2017年から開始したこの取り組みは、年々店舗数や回収日を増やし、2024年4月には全店で実施となりました。寄付された食品は、母子支援施設や子ども食堂といった支援を必要とする方々へ提供されています。

総回収量

7,885 kg

宅配物流センターにある予備商品を2021年からフードバンクに提供しています。

提供量

7,739 kg



宅配良品返品 商品提供・社会福祉協議会との連携

組合員のご理解のもと宅配では、2021年度から入院などやむを得ない事情を除き、「良品での返品を受け付けない」運用をしています。やむを得ない事情でも一定数の返品があり、食品廃棄の課題がありました。2023年度から京都府社会福祉協議会や市区町村社会福祉協議会を通じて無償で提供し、子ども食堂など地域の福祉団体に活用していただいています。2024年3月には、京都府社会福祉協議会と、連携による食を中心とした支援の充実やSDGs目標の達成に向けて「食品の提供・譲渡に関する協定式」を行いました。

—— 提供先の諸団体からの声 ——

- ・引き取った化粧品は、女性3名で子ども食堂をされている方や母子会にお渡しし、大変喜ばれました。
- ・度重なる食品の値上げで予算もひっ迫するところですが、おかげさまで調味料等をいただき大変助かっています。

提供量

13,661 kg



心通う地域の力

きょうされん

きょうされんは、障害者施設などが加盟する全国組織で障害者や家族の願いをもとに、障害がある人たちが地域で安心して暮らせることを目指して、国や自治体への要望活動や研究活動を進めています。きょうされん京都支部と京都生協とは1990年に協定を結び、署名・募金活動やきょうされん商品の販売、学習・交流などさまざまな提携活動に取り組んでいます。

商品の取り扱い

「きょうされんの商品を利用して応援したい」という組合員の声から、店舗でもコープ下鴨、さかの、二条駅に加えて、2024年7月から醍醐石田の4店舗で取り扱いをしています。



きょうされんと京都生協のつどい

2024年7月に京都テルサで「きょうされんと京都生協のつどい2024」を開催し、共同作業所や京都生協から142人が参加しました。



—— 参加した組合員の声 ——

「すべての人間が大切にされる平和な社会をつくること」を共通の課題として長年提携活動をしていることを組合員として誇りに思っています。素敵な演奏やたくさんの商品に心がウキウキ。また来年も楽しみにしています。

社会貢献活動助成金

誰もが安心して暮らせる地域社会づくりの推進を図ることを目的に、京都府を拠点に社会貢献活動を実践する団体に対して2019年から社会貢献活動助成金を交付しています。

2024年度 助成

10 団体 **200** 万円

2024年度京都生協 社会貢献活動助成金 助成団体一覧

団体名	活動分野
特定非営利法人 フードバンク京都	生活困窮者、社会福祉施設や子ども食堂への支援、食品ロスの削減
アンサンブル・ハーティブリッジ	障害があって一般のコンサートに行けない方、そのご家族、小さな子どもたちと一緒に音楽を楽しむ活動
ハンド&ネイルケア ボランティアチーム ガンチー	高齢者を中心に、福祉ネイリストらがハンドケアやネイルケアを実施
気ままおやじ会右京	カフェ活動、清掃活動、シニアサポート活動
オレンジカフェ上京実行委員会	認知症カフェ
アガベ	子ども・高齢者・外国人の交流の場、癒やし居場所づくり
空き家バンク京都 子ども食堂	子ども食堂
特定非営利活動法人 アウンジャ	男女共同参画社会を目指す、DV・FV被害者の支援
特定非営利活動法人 えがおの家	子育て支援、居場所づくり、地域コミュニティづくり
崇仁教育連絡会	地域の児童・生徒の育成

募金一覧表

募金名	金額	募金名	金額
ユニセフ募金	1,636,877円	きょうされん募金	1,950,105円
ユニセフお年玉募金	2,782,646円	くらしの助け合いの会への募金	666,166円
ハンガー・フリー・ワールド「書き損じハガキ等回収キャンペーン」への協力	6,044,714円	平和募金	994,030円
くらしを守る取り組みを支える募金	1,005,393円	令和6年能登半島地震災害支援募金	5,225,490円
		令和6年能登半島地震及び豪雨災害支援募金	4,891,402円

能登半島地震復興応援の取り組み

2024年1月1日に石川県能登地方で発生した震度7の地震から1年以上が経ちました。被災地では今もなお災害ボランティアの募集が続いています。また、孤独・孤立、貧困、心身の健康問題等の様々な課題が山積しています。このような状況を踏まえ、私たち生協は「どこよりも長く、きめ細かく寄り添って」をスローガンに全国の生協とともに、被災地域の組合員の暮らしの復旧に向けて支援活動を行っています。

支援募金&商品利用を通じた募金

「令和6年能登半島地震災害支援募金」及び「能登半島地震及び豪雨災害支援募金」として、宅配や店舗を通じて寄せられた募金は、日本生活協同組合連合会を通じて、義援金（被災した方に直接配分）と支援金（被災地への支援活動のための費用）として被害の大きかった自治体や、被災者支援活動を行う団体等へ順次送金しました。また、2024年11月には、宅配の「くらしのキャンバスパレット」の表紙掲載商品のご利用金額（本体価格）の5%を支援募金に積み立て、2,616,620円を寄付しました。



職員派遣

2024年8月に日本生協連「コープ被災地支援センター」の被災地支援への職員派遣要請を受け、穴水町災害ボランティアセンターへの被災地ボランティア活動に支部職員1人を派遣しました。

—— 支援に行った職員の声 ——

・実際に被災された方たちの人間模様など、なかなか報道されることのない深層部分を目の当たりにし、自分の中にあった災害というものの定義が変わったように思います。



Coop Fan Meeting

2025年3月に京都市勤業館みやこめっせで開催されたCoop Fan Meetingでは、コープいしかわから「能登を笑顔に」の旗やのぼりをお借りしてブースを設営。「能登のメーカー商品」を販売してご来場の組合員に募金を呼びかけました。

—— 利用者の声 ——

・息子が小松に住んでいて、先週も行ってきたばかり。ぜひ支援したい。
・商品を利用することで能登を応援することになるのね。



持続可能な世界の実現に向けて

平和・国際貢献

京都生協 平和への願い

2002年、京都生協の平和についての基本的な考え方を定め、平和の取り組みのさらなる発展を目指して「平和への願い」を策定しました。また、平和への想いをつなぐため、毎年、機関紙コーポロ8月号では組合員からご応募いただいた戦争体験談を紹介しています。

「平和への願い」
はこちら



戦争体験談



ピースパレード

2024年6月に地下鉄蹴上駅から京都市役所までを歩く、ピースパレード2024に参加しました。沿道の人々に総数190人、うち京都生協からは組合員・理事・職員合計40人が平和をアピールしながら歩きました。参加者からの「We love peace Love&Peace」の掛け声に、沿道では笑顔があふれていました。



ピースアクションinオキナワ、inヒロシマ

2024年3月に日本生協連と沖縄県生協連が毎年取り組む「ピースアクションinオキナワ」へ高校生を含む計6人が参加しました。戦跡などを訪れ、沖縄戦の実相や現在も続いている米軍基地の問題について、全国の生協からの参加者と一緒に学び、平和について考えました。また、2024年8月には、広島県生協連と日本生協連が主催した「ピースアクションinヒロシマ」に親子4組と職員1人の計9人で参加しました。ピースアクションinヒロシマは、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として、1978年から毎年開催されています。

参加者の声

- ・改めて考えるきっかけになるような、本当に貴重な体験をしたので多くの人にこのような体験をしてほしいです。
- ・未来がこれから構築されていくなら、今後の世界も私たち次第。理不尽に人生を奪うことのないよう「平和」を祈り続けたいです。



誰もが安心して暮らせる持続可能な世界の実現のために、一人ひとりができることを考え、行動することが大切です。京都生協では、平和の取り組みのさらなる発展を目指して「平和への願い」を策定しています。また、国際貢献では支援活動に取り組んでいます。

ユニセフ・ハンガーフリーワールド

ユニセフ お年玉募金&学習展示会

「私のお年玉を世界の子どものために。」大切なお年玉の使い道の一つとして、一部を募金する「お年玉募金」に取り組んでいます。また、2025年1月にコープ二条駅2階KYOTO Co-Labでミャンマーの暮らしや衣装の紹介などのパネル展示や、日本ユニセフ協会の方に経口補水液づくりのワークショップを行いました。



お年玉募金額 **2,782,646円**

ユニセフ募金活動

ユニセフは世界のすべての子どもの命と権利を守るため、最も支援の届きにくい子どもたちを最優先に、約190の国と地域で活動しています。その活動資金は、すべて個人や企業・団体からの募金や各国政府からの任意拠出金でまかなわれています。京都生協では、1989年からユニセフ募金の取り組みをスタートしました。現在は「ユニセフ・ミャンマー指定募金」に取り組む、ミャンマーの女性と子どもたちのための栄養支援プログラムを応援しています。

ハンガー・フリー・ワールド

2024年3～5月に、ご家庭でできる国際協力として、NGOハンガー・フリー・ワールドが呼びかける「第23回書損じハガキ等回収キャンペーン」に参加しました。ご家庭にある有価物、書き損じハガキ、未使用切手、中古CD、DVDなどを封筒に入れてご提供いただき、組合員から寄せられた回収封筒は3,089件、換金後の支援額は604万4,714円になりました。右の写真は切手などを仕分けしている様子です。また、2024年4月には、世界の飢餓の状況について学ぶ「ハンガー・フリー・ワールド活動報告会」に17人が参加しました。



回収封筒数 **3,089件**

換金後の支援額 **6,044,714円**

食品廃棄の削減とリサイクル率の向上

食品廃棄の削減

▶ 宅配事業

2021年度から宅配での食品の良品返品は原則受け付けないこととするルールを設け、食品廃棄問題への対応に取り組んでいます。

*P27 宅配良品返品商品提供・社会福祉協議会との連携 参照

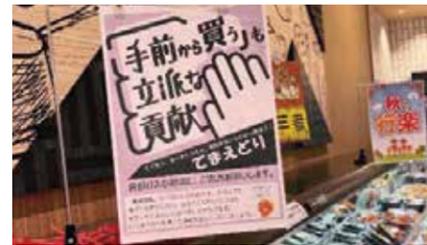
▶ 店舗事業

京都府・京都市から「食べ残しゼロ推進店舗」の認定を受けています。自動発注システムを導入し、適正な発注を行ったり、賞味・消費期限の近い商品に適正な値引きをしたり、すぐに食べる物は手前の賞味期限が短い商品を選んでいただく「てまえどり」を推奨するなどして取り組んでいます。

▶ 量り売り

コープ二条駅では、紙袋などの容器でご利用できる量り売りコーナーを設置し、プラスチックごみや食品ロス削減に取り組んでいます。2025年4月にリニューアルオープンしたコープ祝園駅にも量り売りコーナーを導入しました。

食品良品返品数
56,549点
(前年比106.3%)



食品リサイクル率の向上

生ごみ処理機の導入

地球環境にやさしい消滅型生ごみ処理機をコープ二条駅で導入し、運用を始めました。この生ごみ処理機は、「運ばず、燃やさず・その場で処理」をコンセプトに、店舗で排出する生ごみを微生物の力で生分解しています。コープ二条駅の状況を踏まえ、2025年度はさらにもう1店舗の導入を検討しています。また、他の店舗でも、廃棄物が堆肥になるように切り替えを行い、目標である食品リサイクル率60%を目指します。



コープ二条駅で減容した排出量 **29,636** kg
全店の食品リサイクル率 **48.9** %

CO₂排出量削減計画～環境2030構想～

削減計画の達成に向けて

『環境2030構想』は、経営戦略『2030構想』の環境保全テーマ課題と位置づけています。

事業所設備の省エネ化、キープ20、キープ28での節電や省エネチューニングによる既存施設の省エネ、太陽光自家発電・自家消費、CO₂排出係数の低い電気の購入、電気自動車の導入、宅配コース効率改善の取り組みを進めました。また、2024年12月からは30施設の使用電気を再生可能エネルギー由来のCO₂フリー電気に転換しました。2024年11月には排出量削減目標を見直し、従来の2030年目標をこれまでの2013年度比40%から50%に引き上げ、脱炭素化社会に向けた取り組みをさらに進めます。

CO₂排出量 **8,212** t
(前年比107.2%)



『環境2030構想』

- 2030年までにグループのCO₂排出量を2013年度比50%以上削減することを目指します。
- 削減計画を達成するために、事業所設備の省エネ化、既存施設の省エネ、太陽光自家発電・自家消費、CO₂排出係数の低い電気の購入の施策を実施します。
 - 電気でのCO₂排出量削減の取り組みにより、2030年目標の達成を目指します。
 - 上記(1)以外でのCO₂排出量削減の取り組みにより、2050年カーボンニュートラルを目指します。
 - 削減目標は技術の進歩や社会情勢および事業活動を考慮して3カ年ごとに見直します。

太陽光発電

本部や配送センター、店舗の屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの創出・使用による電気由来のCO₂削減に取り組んでいます。2024年度は2施設で増設し、発電能力が118.2kw増えることで、年間34tのCO₂削減効果を見込んでいます。

太陽光発電量 **約 94** 万kw



多様性を認め合う 活力ある組織を目指して

京都生協は新たな希望をつくることをビジョンに掲げ、多様性を認め合う、活力ある組織を目指し、職員が安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいます。

誰もがいきいきと働く職場環境

職員の行動指針「クレド」

理念である「頼もしい隣人」を体現できるように、8つの行動指針の実践を行っています。2025年2月には、基本方針や社会情勢にあわせてクレドの見直しを行いました。職場では、クレドミーティングを行っており、「事例の共有」や「自己開示の機会」、「組織内コミュニケーションの活性化」などの効果が生まれています。

CREDO -理念・ビジョンに近づくための行動指針-

- | | |
|---|---|
| <p>1. 私たちは、自分から進んであいさつをします
あいさつは人と人とのつながりの第一歩。明るい笑顔で相手に声かけをします。</p> <p>2. 私たちは、困っている人に自ら歩み寄ります
誰かのために自分ができることを常に考え行動し、笑顔に導きます。</p> <p>3. 私たちは、身だしなみの清潔感を大切にします
「自分らしさ」を大事にしなが、周囲を不快にすることのないよう心がけます。</p> <p>4. 私たちは、相手の話・意見にいつも耳を傾けます
相手に寄り添って共感し、同じ目線に立って信頼関係を築きます。</p> | <p>5. 私たちは、安全・安心をなにより最優先します
決められたルールを守ることで、事故やトラブルを未然に防ぎます。</p> <p>6. 私たちは、仕事や暮らしの中での気づきを大切にします
いろいろな視点からの発見をヒントに、アイデアを生み出し周囲に広がっていきます。</p> <p>7. 私たちは、新しいことにチャレンジし成長を続けます
成功も失敗も実践すればこそ。困難なことにも前を向いて挑戦し続けます。</p> <p>8. 私たちは、“チーム京都生協”の精神を大切にします
全事業が“自分事”。一人ひとりがお互いを認め合って協力し合える頼もしい存在を目指します。</p> |
|---|---|

男女共同参画 ワークライフバランス

多様性を尊重し、誰もが安心して活躍できる職場環境を整えることが、地域や社会の未来に貢献するとの考えのもと、女性管理職比率の向上、育児・介護・ドナー休暇の充実、そして障害者雇用に取り組んでいます。多様な働き方と包摂的な職場環境を整えることで、すべての人々が安心して能力を発揮できる社会の実現を目指しています。

取得者の声

・ 出産、子育てに理解のある職場だと感じています。夫も育児時短を利用し、私も安心して子育てができました。(育児休業・育児時短)

女性管理職	13.9%
育児休業取得者	14人
男性育児休業取得率	50%
育児時短勤務利用者	14人
介護休暇・休職取得者	0人
シニア(65歳以上)雇用*	640人
障害者雇用率	3.54%

*アルバイト

子ども参観日

2024年7~8月の夏休み期間、職員の子どもの親の仕事体験する「子ども参観日」を実施しました。

参加した子どもの感想

・ 今年も暑い中、お父さんとがんばりました。疲れたけど楽しかったです。
・ 母が家族のために必死で働いている姿を見て、決して誰でもできるようなことではないと気づき、母を誇りに思いました。最近あまり家の手伝いができていないけど、お仕事で疲れていたらいつでも頼ってほしいです。



理念・ビジョン・クレドの実践

産地研修

コープ商品を軸とした学習や体験の場として、産地見学や工場見学などの研修を実施しました。

参加した職員の声

・ 生産者の方と直接お会いして、お話していただける機会はとても大事で、生産者さんの想いや温かさなど身をもって感じました。自分は生産者の代わりになって商品をお届けしているのだと改めて思いました。こんなにおいしい小松菜は初めて食べ、ますます好きになりました。(横江ファーム産地研修)



きらっと研修

他系統や他事業所の職員と交流を深め、組織全体の視点をもつきっかけになるように、また、商品への学びを深めることを目的に、毎年職員を対象にした「きらっと研修」を開催しています。

参加した職員の声

・ 他支部だけでなく、店舗、共済、福祉の方と話をする機会は貴重なので交流できる場をいただけたことはありがたいです。
・ 生産者が自身をもって商品を提供していただいていることに感謝し、さらに組合員へ伝えていかなければならないという使命感を持ちました。



自主研究会 理念研修・みかんの会・未来研究会

組織内で特定のテーマや課題について自主的に学び合い、研究を深めるため、職員が自主的に参加する研修が開催されました。2024年8月に開催した理念研修は、京都生協の理念や歴史を学び、今後どのような役割を果たしていくべきかを考える場とし、49人の役職員が参加しました。また、若手職員の自主研究会も立ち上がり、自分自身のキャリアを考えるための機会として、先輩職員や取引先との交流を開催しました。

参加した職員の声

・ カジュアルな雰囲気の中グループディスカッションができ、業務の垣根を超えた交流は、多くの気づきにつながりました。(理念研修)
・ まずは目の前の仕事を大事にすることが自分自身の成長につながると感じました。いろんな分野に興味を持ち、本を読んだり、資格を取るなど自分の知見を深めたいです。(未来研究会)



組合員の声検討委員会

宅配や店舗、組合員コールセンターなどに寄せられた組合員のリアルな声から課題を発見し、組合員の暮らしの願いを実現させるため、系統横断で組合員の声検討委員会を立ち上げています。中でも、「組合員からのありがとう」「対応で喜ばれた」事例をつくり、広げていくことで、一人でも多くの組合員にポジティブな実感をもっていただけるような取り組みにしています。組合員の「店舗のレジにイスを設置してほしい」という声をきっかけに検討し、2025年2月から全店で導入しました。



コールセンター問い合わせ件数
(意見要望/問い合わせ/お申し出)

335,203件

BCP訓練 災害対策本部立ち上げ演習

2024年9月に役員・対策本部メンバーを対象とした災害対策本部演習を実施しました。前年度は、マネジャーを対象に「被災時の現場マネジメントを“疑似体験”する防災インバスケッ研修」を受講しましたが、2024年度は災害発生時の対策本部を想定し、与えられた被害状況等から限られた時間で指示・判断を行い、発災時の対応力を高める訓練となりました。



—— 参加者した職員の声 ——

- ・今回BCP訓練を受けて、組織が直面するさまざまな危機に対応する能力を高めるために非常に重要な機会だとあらためて感じました。
- ・演習を通じて事業継続計画の内容について理解が進んだということと、作り上げてきた計画の完成度の高さを感じました。

ハラスメント教育

ハラスメントの種類や影響について理解を深めるためハラスメント教育を全職員に実施しています。また、全職員を対象にしたCSR教育では「コンプライアンスアンケート」を実施しており、誰もが安心して働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

コンプライアンス相談

職員相談件数 取引先相談件数

25件 **0**件

生協運営のしくみ

生協が社会的責任を果たすためには、「機関運営」が適正に行われることが必要です。生協で機関運営にあたるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて重要事項を決定する「理事会」があり、生協を代表して業務を執行する「代表理事」、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事」で構成しています。

経営責任

公正で健全な組織運営を行うため、2010年に「内部統制基本方針」を定め、以下4つの目的を達成するために、毎月開催するリスク管理委員会で整備計画の進捗管理を行っています。また、独立の立場で経営諸活動の全般にわたる制度および業務執行状況を監視・検証するとともに、内部統制システムの構築の進捗状況、運用状況や有効性などについてモニタリングを行うため、内部監査担当による監査を実施しています。

- 業務の有効性および効率性
- 財務報告の信頼性
- 事業活動に関わる法令などの順守
- 資産の保全

業務マネジメントシステムの運用

「目指すべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるためのしくみ」として、「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善を進め、組合員満足度の向上、商品・サービス品質の向上、事業計画の達成を目指します。

コンプライアンス体制の推進

倫理・法令や社会規範、職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動を進めるための職員教育に取り組んでいます。2005年に「コンプライアンス基本方針」「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を定めて、職員にコンプライアンス順守、ハラスメント防止、ネット上での情報発信の注意、飲酒運転の撲滅などの啓発をしています。

事業継続計画 (BCP)

台風・豪雨などの災害に対して、京都生協では事業継続計画(BCP)に基づき「自然災害対応マニュアル」に沿った対応をしています。他団体との通信訓練や職員の安否確認訓練などを定期的に行うとともに、行政などの多様な組織と連携した取り組みを進めています。また、情報セキュリティ対策の強化も重点に据え、暮らしを支える事業の継続に努めています。

外部審査の結果

特定非営利活動法人KES 環境機構に登録し、毎年の定期審査を受け、業務マネジメントシステムが有効かつ適切に機能・維持されているかを審査しています。

- 審査機関：特定非営利活動法人KES*環境機構 *京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格
- ◆審査結果：**KESステップ2SR**に適合していると判定されました。 ◆受審組織：京都生活協同組合
- ◆審査実施日：2024年9月11日・12日 ◆適用規格：KESステップ2SR
- ◆審査目的：京都生協のマネジメントシステムが、KESステップ2SRの要求事項に適合しているかを審査すること。

事業紹介



宅配事業

京都府全域に週に1回、食品から日用品、雑貨までさまざまな商品をお届けします。

宅配

供給高：**570億円**(前年比99%)

利用人数：**178,023人**/週

夕食サポート

管理栄養士によってカロリーや塩分を考慮したお弁当の配達サービス「夕食サポート」を展開しています。

利用人数：**4,034人**/週

店舗事業

安全・安心の品揃えとサービスを提供し、日々のお買い物から暮らしを支えます。

供給高：**273億円**(前年比108%)

利用人数：**33,365人**/日

福祉事業

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という想いのために、きめ細やかな介護サービスをお届けします。

事業収入：**3億618万円**(前年比76%)

利用人数：**1,069人**/月平均

共済事業

全国の組合員同士の「助け合い」の気持ちから生まれた保障制度です。

手数料収入：**8億1,838万円**(前年比99%)

保有件数：**272,810件**

葬祭事業

宗教・宗派・形式を問わずご葬儀から仏壇仏具まで、旅立ちのときをお手伝いします。

供給高：**1億223万円**(前年比115%)

クオレ会員数：**12,431人**

グループ会社

京都協同食品プロダクト(株)

水産・畜産の生鮮加工食品の製造、販売を行う、京都生協の加工センターです。

(株)コープネットワークサービス

京都生協の物流や宅配事業を中心に業務を行っています。

(株)ハートコープきょうと

京都生協の特例子会社として、リサイクル事業を通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護などの業務を行っています。

(株)京都コープサービス

各種保険、リフォーム・新築、カルチャー教室、さまざまな斡旋サービスなど、毎日の暮らしの快適さを実現する多彩な商品サービスをご案内しています。

(株)コープストアサービス

コープのお店9店舗で、インスタアペーカリーの運営を行っています。